

セキショウに関する香粧品科学的研究 (3) セキショウの栽培検討 (2)

○畑野 公輔<sup>1</sup>, 三小田 千穂<sup>2</sup>, 酒井 奈緒<sup>2</sup>, 原田 公博<sup>2</sup>, 作田 圭亮<sup>3</sup>, 佐久間 克也<sup>1</sup>, 佐竹 元吉<sup>4</sup>, 矢原 正治<sup>5</sup> (<sup>1</sup>小川香料機能研, <sup>2</sup>小川香料フレグランス研, <sup>3</sup>小川香料, <sup>4</sup>お茶の水女大生活環境教育研究セ, <sup>5</sup>熊本大薬)

【目的】セキショウ (*Acorus gramineus* Soland.) は清水の流れる水辺に自生する多年生草本で、その乾燥根茎は局外生規セキショウコンとして専ら薬用に供されている。一方、地上部は子供の日にたてる菖蒲湯の浴剤として、かつては民間で使用されており、現在でも別府市鉄輪温泉では地上部を蒸し湯の敷布として利用している。我々はこれまでに、慣例的に温浴効果があるとされていたセキショウの乾燥葉、生葉、根の抽出物を作成して検証を行い、その血流増加作用並びに発汗作用について報告した<sup>1)</sup>。しかし、セキショウの国内採取量は少なく栽培に関する報告もないため、供給は輸入に頼っているのが現状であった。そこで国内におけるセキショウ栽培方法の確立を目的として種々検討を開始し、6ヶ月間の観察結果を前報にて報告した<sup>2)</sup>。今回は、12ヶ月間の観察により得られたいくつかの知見について報告する。【方法】セキショウは別府市自生品を主根長さ、全体重量、直径、節数、ひげ根長さを測定した後、日光照射の有無と清流からの距離の組み合わせで4種試験区に各々定植した。一定期間経過後、各試験区から一部収穫して同様に測定して生長を観察した。また栽培中は各試験区について気象条件(外気温、湿度、地中温度、清流の水温、照度)の測定を行った。【結果】生長は試験区により異なる結果が観察された。また、葉部、主根部、ひげ根部に含有される精油成分についてGC-MSによる分析を行い、各部位における含有量の比較検討を行った。前報<sup>2)</sup>の結果と合わせ、セキショウの栽培における環境として、より良い条件が示唆された。

1) 日本生薬学会第60回年会講演要旨集 p.257 (2013)

2) 日本薬学会第134年会講演要旨集 2p.235 (2014)